

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

皆の見ていた前を出て行った。人々は皆驚き、「このようなことは、今まで見たことがない」と言って、神を賛美した。

【本日の奨励】

マルコ 2: 1-12 は奇跡物語と呼ばれるものです。新約聖書では奇跡を「デュナミス」や「セーメイア」と呼んでいます。前者は「ダイナマイト」の語源でもあります。「力」を意味し、後者は「徴」を意味します。この場合の奇跡とは自然の法則や超自然的な力によって引き起こされる事象を表し、仏教の「靈験」に相当します。靈験とは靈妙不思議な超自然的な経験を表し、人間の神仏への祈願に対して顕示されます(御百度参り、護符)。

本日のテキストはイエスが「中風」の人を癒やしたという病気治癒の奇跡物語です。中風とは脳卒中による後遺症を表します。確かに、この物語は奇跡物語ではあるのですが、物語の中心は奇跡そのものではなく、奇跡の背後にあるイエスの温かい眼差しにあります。イエスは中風の人を癒やすときに、「起きて、床を担いで歩け」とは言わずに、「子よ、あなたの罪は赦される」と語りかけています。そして、ユダヤ教の宗教指導者はこのようなイエスの発言をイエスが神のように人の罪を赦していると言って、イエスを瀆神者として批判するのです。

おそらく、この物語の背後には病気がその人の罪のため生じるという考えがあったものと思われます。ですから、中風の人には自分が罪深いゆえに病気になったと思い込み、後遺症に加えて、病気にまつわる差別や偏見に苦しんでいたのです。イエスはその人に「子よ、あなたの罪は許される」と語りかけたのです。しかも、「癒やす」と訳されているギリシャ語「アフィエイミ」の原意は、「自由にする／解放する」なのです。

この場面でイエスを突き動かしたのは、中風の人を担いで来た四人の人たちの「信仰」だと伝えられています。信仰はギリシャ語でピステイスと言いますが、信仰という宗教的意味だけではなく、人間相互の「信頼」をも表します。ですから、この中風の人には「信仰」によって癒やされただけでなく、彼を思う「信頼」によって癒やされた(自由にされた)のです。学生のみなさんも、人間相互の信頼を大切にす人生を歩んでください。

【次回の大学礼拝】2019年7月30日(火) 10時40分

次回の大学礼拝はキリスト教学の高橋優子先生が奨励を担当してください。前学期を締め括るお話しです。みなさん、ぜひご出席ください。

【前回の大学礼拝】2019年7月2日(火)

学生 248名 教職員ほか 24名 合計 272名

【大学礼拝週報】 2019年度 第14号 (前学期第14号)

2019年7月23日(火) 午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 小林昭博(宗 教 主 任)
奏 楽 佐藤理恵(野幌教会会員)
讃美指導 相原晴伴(循環農学類教員)

前 奏 「神、家をかえりみたまわずば」(J.C.バッハ)
讃美歌 讃美歌312番(いつくしみふかき)
聖書 マルコによる福音書2章1-12節
祈り
さんび 酪農学園大学聖歌隊
奨励 「信頼が人を癒やし自由にする」 小林昭博
報告
讃美歌 酪農讃歌
後 奏 「いと愛しまつるイエスよ、われらはここに」(ツイップ)

【本日の聖書】マルコによる福音書2章1-12節

1 数日後、イエスが再びカファルナウムに来られると、家におられることが知れ渡り、2 大勢の人が集まったので、戸口の辺りまですきまもないほどになった。イエスが御言葉を語っておられると、3 四人の男が中風の人を運んで来た。4 しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかったので、イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした。5 イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。6 ところが、そこに律法学者が数人座っていて、心の中であれこれと考えた。7 「この人は、なぜこういうことを口にするのか。神を冒瀆している。神おひとりのほかに、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」8 イエスは、彼らが心の中で考えていることを、御自分の霊の力ですぐに知って言われた。「なぜ、そんな考えを心に抱くのか。9 中風の人に『あなたの罪は赦される』と言うのと、『起きて、床を担いで歩け』と言うのと、どちらが易しいか。10 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に言われた。11 「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」12 その人は起き上がり、すぐに床を担いで、